

## 別紙 1. 今回の投資案件一覧

ID / ステータス	タイトル	製品開発パートナー	疾患・製品	開発段階	投資額
G2019-102 / 新規	シャーガス病予防のための弱毒生ワクチンの創出、最適化ならびに前臨床試験～ CRISPR/Cas による Cyp19 遺伝子欠損クルーズ・トリパノソーマを用いて	長崎大学熱帯医学研究所(熱研)、オハイオ州立大学、オハイオ大学	シャーガス病 ワクチン	リード最適化	¥109,792,791
G2019-105 / 新規	唾液を用いた無症候性および無性生殖体マラリアの迅速検査 (SMAART-1) の商業開発	株式会社セルフリーサイエンス、株式会社フロンティア研究所、フロリダ大学、Oasis Diagnostics Corp.、ERADA Technology Alliance, Ltd.	マラリア 診断薬	プロダクトデザイン	¥138,269,665
G2019-111 / 新規	CoPoP リボソームを用いた Pfs230/CSP 多価マラリアワクチン	愛媛大学、PATH マラリアワクチンイニシアティブ、ニューヨーク州立大学バッファロー校	マラリア ワクチン	免疫原性の検証	¥97,295,110
H2019-101 / 継続	新規抗マラリア薬としてのプロテアソーム阻害剤の研究開発	武田薬品工業株式会社、Medicines for Malaria Venture、メルボルン大学 Bio21 Molecular Science and Biotechnology Institute	マラリア 治療薬	リード化合物探索	¥52,614,000
H2019-104 / 新規	新規抗マラリア薬としての nucleoside sulfamate 化合物の研究開発	武田薬品工業株式会社、Medicines for Malaria Venture、メルボルン大学 Bio21 Molecular Science and Biotechnology Institute	マラリア 治療薬	リード化合物探索	¥101,612,940
H2019-107 / 継続	フェノタイプアッセイおよびメカニズムベースのヒット化合物からの結核に対するリード化合物創出プロジェクト	武田薬品工業株式会社、The Global Alliance for TB Drug Development	結核 治療薬	リード化合物探索	¥111,205,860
S2019-111 / 新規	マラリアに対する化合物探索プログラム	武田薬品工業株式会社、Medicines for Malaria Venture	マラリア 治療薬	ヒット化合物探索	¥4,196,250
S2019-121 / 新規	顧みられない熱帯病に対する化合物探索プログラム	田辺三菱製薬株式会社、Drugs for Neglected Diseases initiative	シャーガス病、リーシュマニア症 治療薬	ヒット化合物探索	¥15,000,000

## 別紙 2. 今回の投資案件概要

## G2019-102

プロジェクト タイトル	シャーガス病予防のための弱毒生ワクチンの創出、最適化ならびに前臨床試験 ~CRISPR/Cas による Cyp19 遺伝子欠損クルーズ・トリパノソーマを用いて
製品開発 パートナー	長崎大学熱帯医学研究所(熱研)、オハイオ州立大学、オハイオ大学
疾患	シャーガス病
製品	ワクチン
開発段階	リード最適化
投資額	¥109,792,791
ステータス	新規案件
概要	<p>クルーズ・トリパノソーマ <i>Trypanosoma cruzi</i> がヒトに感染するとシャーガス病を引き起こされます。慢性感染ではおよそ 20-30% に心臓の線維化ならびに心筋症が認められ、南米における感染に起因する心不全の主な原因です。シャーガス病は、主として持続感染者の移住により南米以外でも増加しており、少なくとも米国で 30 万人、世界では 800-1100 万人が感染しています。米国では感染した媒介昆虫(サシガメ)による 20 歳以下の <i>T. cruzi</i> 感染者が増加しています。感染者の同定と治療は困難を伴います。僅か2種の既存薬である nifurtimox と benznidazole が治療に使用可能であるものの、宿主から虫体を完全に除去するには薬効が不十分であり、また顕著な副作用のために使用が難しいのが現状です。したがって <i>T. cruzi</i> 感染を予防可能な安全なワクチンと優れた治療法の開発が喫緊の課題です。私たちのプロジェクトは <i>T. cruzi</i> のサイクロフィリン 19 (Cyp19)* の生化学的・生物学的解明を展開する過程で Cyp19 欠損株を作成しました。その結果、Cyp19 は <i>T. cruzi</i> の感染性と病原性に不可欠であり、同分子が同症治療に適応可能な小分子阻害剤の潜在的なターゲットになりうることを証明しました。Cyp19 欠損 <i>T. cruzi</i> は動物で病気を引き起こすことはなく、一方モデルマウスへの繰り返し接種は急性シャーガス病を完全にコントロールし、Cyp19 欠損 <i>T. cruzi</i> が有望な弱毒生ワクチン株となりうることを実証しました。</p> <p>*Cyp19: タンパク質分子中のプロリン残基のシス・トランス異性化を触媒するペプチジルプロリルイソメラーゼ <i>Peptidylprolylisomerase</i>: 略称 PPLase) であり、異性化酵素(イソメラーゼ)の一種です。</p> <p>本研究開発の最終的な目的はヒトや動物で使用可能なシャーガス病に対する安全で極めて有効な弱毒生ワクチンを開発することにあります。本プロジェクトの具体的な目的は 1) CRISPR/Cas9 編集技術による Cyp19 遺伝子欠損 <i>T. cruzi</i> 株の創出、ならびに同株の特徴・安定性・安全性・毒性の検証、2) 同ワクチン株による誘導される防御免疫を担う T・B 細胞応答の解明、3) マウスでの急性・慢性シャーガス病の予防効果、その持続期間、多様な株に対する交差防御の実証、4) 免疫不全宿主での安全性、5) 昆虫ベクターを介した伝播リスクの検証です。</p> <p>本プロジェクトは以下に示す明確な目的に従ってデザインされています。</p> <p>目的 1: CRISPR/Cas9 編集技術を用いた Cyp19 遺伝子欠損 <i>T. cruzi</i> 株の創出ならびに同株の特徴・安定性・安全性・毒性の検証</p> <p>目的 2: 同ワクチン株によって誘導される T・B 細胞応答のプロファイリング、防御免疫の決定因子の解明を通じたワクチン戦略の最適化</p> <p>目的 3: 同ワクチン株によるマウスでの急性・慢性シャーガス病予防効果の検証、防御免疫の持続期間、および多様な株に対する交差防御能の検証</p> <p>目的 4: 同ワクチン株のサシガメの中での生存・増殖能、およびサシガメと動物間での伝播能の検証</p>
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfiodetail/detail/143/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfiodetail/detail/143/jp</a>

## G2019-105

プロジェクト タイトル	唾液を用いた無症候性および無性生殖体マラリアの迅速検査(SMAART-1)の商業開発
製品開発 パートナー	株式会社セルフリースサイエンス、株式会社フロンティア研究所、フロリダ大学、Oasis Diagnostics Corp.、ERADA Technology Alliance, Ltd.
疾患	マラリア

製品	診断薬
開発段階	プロダクトデザイン
投資額	¥138,269,665
ステータス	新規案件
概要	<p>マラリアは、世界の人口の3分の1が病気の危険にさらされており、依然として世界の主要な健康被害です。重要なことは、特にサハラ以南のアフリカでは、5歳未満の子供の主な死因であることです。マラリアの撲滅とそれに向けた取り組みは近年停滞しており、世界保健機関のマラリア撲滅に関する戦略的諮問グループは、現在の検査法の限界を克服するための検査法の改新を要求しています。マラリア迅速診断検査 (Rapid Diagnostic Tests: RDT) はマラリア根絶の重要なツールでしたが、最近の研究では、熱帯熱マラリア原虫の変異体が出現し、現地にてマラリア感染を確認するRDTの診断能力が制限されてしまうことが示唆されています。私たちのプロジェクトは、唾液または血液を診断材料として使用し、無症候性の症例を高い信頼性で診断するのに十分な感度を持ち、特に子供の診断スクリーニングを容易にするRDTを作製することにより、現行の問題点に対処します。</p> <p>フロリダ大学は、マラリア原虫ヒスチジンリッチタンパク質-2 (HRP-2) の様な現在使用されている寄生虫マーカーを代替出来る、新しい熱帯熱マラリア原虫タンパク質マーカー「PSSP17」を特定しました。PSSP17タンパク質は感染した赤血球に存在し、臨床的および無症状の感染者の唾液中に可溶性分子としても存在します。プロトタイプテストを使用した最近のデータでは、このマーカーを使用すると、無症状のマラリア感染の子供を高い精度で判定できることが実証されました。この実証データに基づいた結果により、ケア(クリニック)およびニーズがある場所(村)において、マラリア感染の高感度検出のためのPSSP17ベースの商用RDTを開発および検証しています。</p> <p>唾液ベースのマラリア無症候性および無性生殖体迅速検査(SMAART-1)の開発と検証のため、以下の3つの目標を提案します。</p> <p>目標1-唾液採取装置とラテラルフローイムノアッセイカセットを含むSMAART-1キットの設計と小スケール(2,000個)の製造。</p> <p>目標2-品質保証された医療機器-PSSP17を捕捉および検出する熱安定性および高親和性組換えヒト化モノクローナル抗体を用いたラテラルフローテスト製造条件の設定。</p> <p>目標3-マラリアの流行国であるコンゴ民主共和国(DRC)、または代替地域としてウガンダでの商用SMAART-1キットのテストと検証。これら研究において、SMAART-1RDTの許容性、使いやすさ、感度、および信頼性が、マラリア検出で使用される最も感度の高い分子生物学的手法と比較されます。プロジェクトの最終目標は、SMAART-1キットが安全基準適合を示すCEマーキングを取得し、次いでWHO事前認証取得のためのすべての基準を満たすことです。</p>
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfiodetail/detail/144/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfiodetail/detail/144/jp</a>

## G2019-111

プロジェクトタイトル	CoPoP リボソームを用いた Pfs230/CSP 多価マラリアワクチン
製品開発パートナー	愛媛大学、PATH マラリアワクチンイニシアティブ、ニューヨーク州立大学バッファロー校
疾患	マラリア
製品	ワクチン
開発段階	免疫原性の検証
投資額	¥97,295,110
ステータス	新規案件
概要	<p>マラリアは、マラリア原虫を病原体とし、蚊によって媒介される重篤な感染症で、アフリカの子供も達の主要な死因となっています。マラリアの撲滅には、マラリア原虫の生活環を断つ治療薬、ワクチン、媒介蚊対策等の新たなツールの開発が必須です。本プロジェクトでは、ワクチン抗原や投与方法の最新の研究成果に立脚して、「ヒトから蚊」、及び「蚊からヒト」への双方向の伝搬経路を全て断つことのできる、多価マラリアワクチンの開発を目指します。具体的には、有望なワクチン抗原である</p>

	<p>Pfs230 (ヒトから蚊) および CSP (蚊からヒト) を新規投与方法である CoPoP リポソーム上に載せ、双方の伝搬経路を断つことができるか検証します。本プロジェクトの遂行により、この多価ワクチンを前臨床試験へと進めるか否か判断します。</p> <p>以下の3点を目的に本プロジェクトを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. CoPoP リポソームと免疫増強剤の組合せ (以下:CoPoP アジュバント) による CSP の免疫原性増強効果の検証</li> <li>2. CoPoP アジュバントへの Pfs230C1 と CSP の同時搭載による免疫原性および防御免疫増強効果の検証</li> <li>3. 上記で選択した製剤の GLP 毒性試験に有用な他種の動物による免疫原性の検証; ワクチンとしての仕様を確立するための品質管理法の開発</li> </ol> <p>Pfs230C1-CoPoP アジュバントによる研究成果を踏まえて、CSP-CoPoP の免疫原性の増強効果をマウスで検討します。次に、CoPoP アジュバントへの Pfs230C1 と CSP の同時搭載の可能性と、それぞれの抗原に対する免疫原性の増強効果をマウスで検討します。なお、CoPoP アジュバントへの Pfs230C1 と CSP の搭載効率とその安定性は、生化学的ならびに物理化学的方法で測定します。Pfs230 により誘導されるヒトから蚊への伝搬阻止効果は、メンブレンフィーディング法 (SMFA) で測定し、CSP により誘導される感染阻止効果は、遺伝子改変マラリア原虫を用いて測定します。さらに、GLP 毒性試験に有用な他種の動物を用いて、その免疫原性を検証します。また、将来のワクチンの仕様を確立するための品質管理法を開発します。</p>
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/145/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/145/jp</a>

## H2019-101

プロジェクト タイトル	新規抗マラリア薬としてのプロテアソーム阻害剤の研究開発
製品開発 パートナー	武田薬品工業株式会社、Medicines for Malaria Venture、メルボルン大学 Bio21 Molecular Science and Biotechnology Institute
疾患	マラリア
製品	治療薬
開発段階	リード化合物探索
投資額	¥52,614,000
ステータス	継続案件
概要	<p>プロテアソームは、すべての真核細胞に見られる細胞内タンパク質の恒常性の維持を担う多酵素複合体です。著しい細胞分裂を経て成長する生体のように、熱帯熱マラリア原虫もまたユビキチン-プロテアソームシステムに大きく依存していることから、マラリア治療薬の開発においてプロテアソームは有望なターゲットです。前回の GHIT 投資案件 (T2015-134; H2017-101) において、武田オンコロジー、メルボルン大学そして MMV (Medicines for Malaria Venture) との共同研究により有望なリード化合物をすでに見出しました。更なる化合物ライブラリーのスクリーニングにより見出された新規“DAG”シリーズは、熱帯熱マラリア原虫プロテアソームのベータ 5 サブユニットだけに作用し阻害活性を示します。この化合物群は、寄生虫細胞に対して高い阻害活性を有し、ヒト細胞毒性が低く、即効性を示し、高いバイオアベイラビリティ、そして SCID マウスを用いた薬効試験で有効性を示しています。既に上市されている経口プロテアソーム阻害剤“ニンラーロ®”の臨床開発データと照らし合わせると、この DAG シリーズは MMV の新しいマラリア治療薬としての目標薬剤候補条件を満たせるものと思われ、アルテミシニン耐性種に有効な新規抗マラリア薬を提供できると考えています。</p> <p>以下の2点を目的に本プロジェクトを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) MMV で設定されているリード化合物基準に見合う熱帯熱マラリア原虫プロテアソーム阻害剤の探索</li> <li>2) TCP (Target Candidate Profile) を満たす熱帯熱マラリア原虫プロテアソーム選択的阻害剤の活性評価</li> </ol> <p>次のステージであるリード化合物最適化へのステージアップに必須な MMV の判定基準を満たすリード化合物を創出するために、引き続き化合物探索研究を行います。最終的に単回投与可能で安全な医薬品候補化合物を創出するために化合物の半減期の改善が必要であり、またヒトプロテ</p>

	アソーム・ベータ5 サブユニットに対する選択性の向上が重要課題です。ヒトプロテアソームと熱帯熱マラリア原虫のプロテアソームの活性部位の構造上の相違は、高い選択性を有する化合物設計の助けになることから、モデリングソフトを使った活性部位の予測構造、またクライオ電子顕微鏡法により得られる構造情報を基に選択的阻害剤のデザインに上手く活用していきます。さらにこれまでの含ボロン酸阻害剤研究開発の経験が、優れた薬物動態特性(経口バイオアベイラビリティ、低クリアランス、長い半減期、高い溶解性そして適した脂溶性)を持つ化合物の開発に生かされるでしょう。
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/146/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/146/jp</a>

## H2019-104

プロジェクト タイトル	新規抗マラリア薬としての nucleoside sulfamate 化合物の研究開発
製品開発 パートナー	武田薬品工業株式会社、Medicines for Malaria Venture、メルボルン大学 Bio21 Molecular Science and Biotechnology Institute
疾患	マラリア
製品	治療薬
開発段階	リード化合物探索
投資額	¥101,612,940
ステータス	新規案件
概要	<p>マラリア感染症は、熱帯熱マラリア原虫によって引き起こされる衰弱性疾患です。毎年2億人もの人々が感染し、およそ40万人の感染者を死に至らしめています。安全かつ即効性があり、熱帯熱マラリア原虫の形質変換の各ステージ、そしてすべてのマラリア寄生虫種に対して有効で、さらに治療および予防の両面に適した単回投与で効果を示す新規抗マラリア薬の開発が急務です。今回我々は、これらの要件を満たす可能性のある nucleoside sulfamate 化合物群を特定しました。その中でも有望な化合物は、生体内での半減期が長く、マラリア原虫に対し非常に強い阻害活性を示し、さらに、ヒト細胞に対して低毒性です。また、マウスモデルでの単回投与薬効試験でも良好な結果をもたらしています。</p> <p>本投資案件は、MMV で設定されているリード化合物最適化ステップに進むための条件に見合う化合物を創出するために、nucleoside sulfamate シリーズの初期リード化合物探索研究を行うものです。特に本投資案件は以下の事を目指しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i. 抗マラリア原虫活性、及びヒトに対する高い選択性を維持しながら経口バイオアベイラビリティの向上を目的とした創薬研究に着手する。</li> <li>ii. 熱帯熱マラリア原虫のそれぞれ異なる形質変換ステージに対する評価試験プラットフォームにおいて、経口投与可能な nucleoside sulfamate 化合物の阻害活性の詳細な分析を行う。</li> <li>iii. 熱帯熱マラリア原虫の SCID マウスモデルにおいて、nucleoside sulfamate 化合物の有効性、また経口バイオアベイラビリティの許容性を実証する。</li> <li>iv. 抗マラリア原虫活性の作用機序の確証、ならびに既存治療薬耐性種への可能性を解明する。</li> </ul> <p>Nucleoside sulfamate 化合物の標的分子は、チロシン tRNA シンテターゼと呼ばれるタンパク質合成に重要な酵素と同定されました。この標的酵素は、ヒトおよび熱帯熱マラリア原虫において活性部位構造の相違が認められており、本化合物群は高選択的に熱帯熱マラリア原虫阻害活性を示しています。生理活性評価試験や、経口バイオアベイラビリティの向上を目指す創薬化学をサポートするためのより精査された一連の評価試験を確立し、阻害活性や人に対する選択性を保持した医薬品に適した物性を有する nucleoside sulfamate 化合物を創出します。我々は、良好な薬物動態特性(経口バイオアベイラビリティ、低クリアランス、長い半減期、良好な溶解性、そして適した脂溶性)が獲得できるものと期待し、本投資案件の一年間において、熱帯熱マラリア原虫の 3D7 細胞を 50%成長阻害薬濃度が 100nM 以下で細胞成長を阻害し、且つラットで 25%以上のバイオアベイラビリティを示す nucleoside sulfamate 化合物を創出します。</p>
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/147/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/147/jp</a>

## H2019-107

プロジェクト タイトル	フェノタイプアッセイおよびメカニズムベースのヒット化合物からの結核に対するリード化合物創出プロジェクト
製品開発 パートナー	武田薬品工業株式会社、The Global Alliance for TB Drug Development
疾患	結核
製品	治療薬
開発段階	リード化合物探索
投資額	¥111,205,860
ステータス	継続案件
概要	<p>結核の治療薬は 40-50 年ほど前に見つかったものが多く、その数も非常に限られています。既存薬の効果がある結核患者の場合においても、少なくとも 6 ヶ月間毎日服用する必要があります。薬剤耐性を持つ結核患者の場合は、さらに長期間服用が必要となります。そのため治療期間が短縮でき薬剤耐性の結核菌に対しても治療効果をもたらす、実効性のある新しい結核薬が緊急に必要とされています。そのような新規薬剤候補を見出すために、武田薬品工業株式会社(武田薬品)と TB アライアンスは共同でスクリーニングプログラムを実施しました。その結果、二つのヒット化合物が同定されました。一つは武田薬品の化合物ライブラリーを用いて、結核菌に対する殺菌作用を評価するフェノタイプスクリーニングから見いだされたヒット化合物です。もう一つは武田薬品の内部ポートフォリオから、結核菌のある特定の酵素を阻害するか検証するメカニズムベーススクリーニングから見いだされたヒット化合物です。本リード化合物創出プロジェクトでは、見いだされた二つのヒット化合物の抗結核活性とプロファイルを向上させて、治療薬候補を見出すを試みます。</p> <p>本プロジェクトの目的は結核菌に対しての活性を向上させつつ、ヒトに対しては安全なリード化合物を創出することです。いくつかのリード化合物については、経口薬かつ適切な用量で世界中の結核患者に対して有効であることを証明していく予定です。</p> <p>以上の目的を達成するために、それぞれのヒット化合物に対して多くの類縁化合物が合成されて評価されます。いくつかの類縁化合物は結核の病態モデル動物で評価されます。化合物デザイン、合成、評価というプロセスを繰り返して、最終的なプロファイルを満たすリード化合物を創出する計画です。</p>
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/148/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/148/jp</a>

## S2019-111

プロジェクト タイトル	マラリアに対する化合物探索プログラム
製品開発 パートナー	武田薬品工業株式会社、Medicines for Malaria Venture
疾患	マラリア
製品	治療薬
開発段階	ヒット化合物探索
投資額	¥4,196,250
ステータス	新規案件
概要	マラリアに対する化合物探索プログラムです。
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/149/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/149/jp</a>

## S2019-121

プロジェクト タイトル	顧みられない熱帯病に対する化合物探索プログラム
製品開発 パートナー	田辺三菱製薬株式会社、Drugs for Neglected Diseases <i>initiative</i>
疾患	シャーガス病、リーシュマニア症
製品	治療薬
開発段階	ヒット化合物探索
投資額	¥15,000,000
ステータス	新規案件
概要	シャーガス病、リーシュマニアに対する化合物探索プログラム
プロジェクト詳細	<a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/150/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/150/jp</a>

## 【注意事項】

1. GHIT Fund では、製品開発案件に対して「助成」することを、「投資」と表現しています。製品開発に対して資金提供だけを行うのではなく、積極的に進捗管理に関与し、成果が見込めないプロジェクトについては直ちに中止するなど、厳格なポートフォリオ・マネジメントを行っています。一般的に用いられる、金銭的利益を目的とした「投資」とは意味合いが異なります。
2. 「継続投資」とは、過去に GHIT Fund から投資を受けている製品開発パートナーが、GHIT Fund から新たな投資を受ける際に用いることを指します。
3. 本プレスリリースの別紙 2 に記載した各プロジェクト概要は、製品開発パートナーが GHIT Fund に提出した資料から該当箇所を抜粋したものです。詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。

## 【グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) について】

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) は、日本政府 (外務省、厚生労働省)、製薬企業などの民間企業、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ウェルカム、国連開発計画が参画する、グローバルヘルス分野の製品開発に特化した日本初の国際的な官民パートナーシップです。世界の最貧困層の健康を脅かすマラリア、結核、顧みられない熱帯病 (NTDs) などの感染症と闘うための新薬開発への投資、ならびにポートフォリオ・マネジメントを行っています。GHIT Fund は、治療薬、ワクチン、診断薬を開発するために、日本の製薬企業、大学、研究機関等の参画を促進しています。詳しくは、<https://www.ghitfund.org> をご覧ください。

## 別紙 3. これまでの投資実績(2019年9月30日時点)

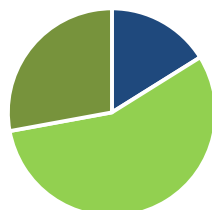
## 1. 累積投資

累積投資額 約 176 億円

累積投資件数 86 件(内訳:進行案件 47 件、終了案件 39 件)

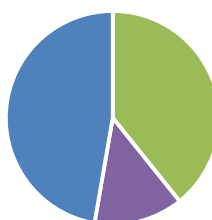
## 2. 累積投資内訳

## 開発段階



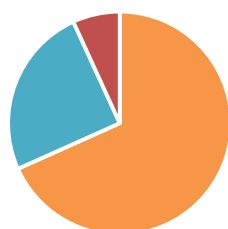
■ 探索研究 ¥3,120,868,061 17.7% (50 件)  
 ■ 非臨床試験 ¥9,765,019,536 55.4% (25 件)  
 ■ 臨床試験 ¥4,737,846,333 26.9% (11 件)

## 疾患



■ マラリア ¥7,062,002,174 40.1% (38 件)  
 ■ 結核 ¥2,405,493,461 13.6% (18 件)  
 ■ 顧みられない熱帯病 ¥8,156,238,295 46.3% (30 件)

## 製品



■ 治療薬 ¥11,890,600,038 67.5% (58 件)  
 ■ ワクチン ¥4,434,160,782 25.1% (20 件)  
 ■ 診断薬 ¥1,298,973,110 7.4% (8 件)

詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。

投資実績: <https://www.ghitfund.org/investment/overview/jp>

ポートフォリオ: <https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp>

開発状況: <https://www.ghitfund.org/investment/advancingportfolio/jp>

臨床試験: <https://www.ghitfund.org/investment/clinicalcandidates/jp>